

## Ⅳ. 信用リスク削減手法

信用リスク削減手法を適用したエクスポージャー

(単位：百万円)

		連 結		単 体	
		平成19年度 中間期末	平成20年度 中間期末	平成19年度 中間期末	平成20年度 中間期末
適格金融資産担保	現金及び自行預金	67,194	164,263	67,194	164,263
	金	—	—	—	—
	債券	—	—	—	—
	株式	6,063	3,949	6,063	3,949
	投資信託等	—	—	—	—
	合 計	<b>73,257</b>	<b>168,212</b>	<b>73,257</b>	<b>168,212</b>
保証 クレジット・デリバティブ	保証	470,467	482,116	469,301	481,109
	クレジット・デリバティブ	—	—	—	—
	合 計	<b>470,467</b>	<b>482,116</b>	<b>469,301</b>	<b>481,109</b>

(注) 自己資本比率算出上、信用リスク削減手法を適用したエクスポージャーの額であります。  
当行では、自己資本比率算出における信用リスク削減手法として包括的手法を採用しております。

## Ⅴ. 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスク

### 1. 与信相当額の算出に用いる方式

派生商品取引の与信相当額は、カレント・エクスポージャー方式にて算出しております。

長期決済期間取引に該当する取引はありません。

### 2. グロス再構築コストの額（零を下回らないものに限る）の合計額及び与信相当額

法的に有効な相対ネットティング契約の効果や担保による信用リスク削減手法の効果をお勧めした取引はありません。

#### 【連結】

(単位：百万円)

種類及び取引の区分	平成19年度中間期末			平成20年度中間期末			
	グロスの再構築コスト(A)	グロスのアドオン(B)	与信相当額(A)+(B)	グロスの再構築コスト(A)	グロスのアドオン(B)	与信相当額(A)+(B)	
派生商品取引	外国為替関連取引	2,238	9,136	11,374	5,536	14,593	20,129
	金利関連取引	523	749	1,273	356	514	871
	その他の派生商品取引	—	—	—	—	—	—
	クレジット・デリバティブ	—	—	—	—	—	—
	合 計	<b>2,761</b>	<b>9,886</b>	<b>12,647</b>	<b>5,892</b>	<b>15,108</b>	<b>21,001</b>
長期決済期間取引	—	—	—	—	—	—	

#### 【単体】

(単位：百万円)

種類及び取引の区分	平成19年度中間期末			平成20年度中間期末			
	グロスの再構築コスト(A)	グロスのアドオン(B)	与信相当額(A)+(B)	グロスの再構築コスト(A)	グロスのアドオン(B)	与信相当額(A)+(B)	
派生商品取引	外国為替関連取引	2,238	9,136	11,374	5,536	14,593	20,129
	金利関連取引	523	749	1,273	356	514	871
	その他の派生商品取引	—	—	—	—	—	—
	クレジット・デリバティブ	—	—	—	—	—	—
	合 計	<b>2,761</b>	<b>9,886</b>	<b>12,647</b>	<b>5,892</b>	<b>15,108</b>	<b>21,001</b>
長期決済期間取引	—	—	—	—	—	—	

(注) 原契約期間が5営業日以内（平成19年度中間期末においては14日以内）の外国為替関連取引は上記記載から除いております。